松江市文化財調査報告書　第89集

二ツ縄手遺跡発掘調査報告書

2001年3月

松江市教育委員会

松江市文化財調査報告書　第89集

二ツ縄手遺跡発掘調査報告書

2001年3月

松江市教育委員会

例　　言

1．本書は乃木区画整理事業を実施するのに伴い、平成11年度に松江市教育委員会が実施した二ツ縄手遺跡発掘調査報告書である。

2．本書で報告する発掘調査は、松江市が国庫補助金、島根県の補助金を得て実施したものである。

3．発掘調査組織は以下のとおりである。

松江市教育委員会

【平成11年度】

教育長	原　敏	文化財室長	岡崎雄二郎
副教育長	田中寿美夫（～6月）	文化財室主幹	吉岡弘行
	神田義之（7月～）	主任主事	金山正樹
生涯学習課長	谷　正次	嘱託員	飯塚啓太

調査員　松江市教育委員会　生涯学習課　文化財室
文化財係　主任主事　金山正樹、嘱託員　飯塚啓太

発掘作業員　加藤恵治、目次　勝、土江直紀、斎藤幸夫、安達　福、吉岡昭雄、木村俊弘
高橋　積、神田正一、野津　潔、森本鶴吉、宇津　実、昌子　昇、須山武道
田淵春男

【平成12年度】

教育長	原　敏（～9月）	文化財室長	岡崎雄二郎
	伊藤忠志（10月～）	文化財室主幹	吉岡弘行
副教育長	神田義之	主任主事	古藤博昭
生涯学習課長	川原良一	嘱託員	飯塚啓太

4．本書の作成は下記の者が携わった。

〈遺物実測〉　金山、飯塚
〈浄　　書〉　飯塚
〈拓　　本〉　荻野哲二（松江市教育委員会嘱託員）
〈遺物撮影〉　古藤

5．本書の執筆は金山、古藤が行ない、編集は古藤が行なった。

6．出土遺物は松江市教育委員会生涯学習課文化財室で保管している。

目　　次

第Ⅰ章　調査に至る経緯 …… 1
第Ⅱ章　位置と歴史的環境 …… 2
第Ⅲ章　調査の概要とまとめ …… 4
遺物観察表…… 15
図　　版
報告書抄録

挿図目次

第１図　松江市位置図 …… 1
第２図　二ツ縄手遺跡と周辺の遺跡 …… 3
第３図　二ツ縄手遺跡トレンチ配置図 …… 5
第４図　調査トレンチ土層断面図（Ｔ－１、Ｔ－２）…… 7
第５図　調査トレンチ土層断面図（Ｔ－３①、②）…… 8
第６図　調査トレンチ土層断面図（Ｔ－４、Ｔ－５①、②）…… 9
第７図　調査トレンチ土層断面図（Ｔ－６、Ｔ－７）…… 10
第８図　出土遺物実測図(1) …… 11
第９図　出土遺物実測図(2) …… 12
第10図　出土遺物実測図(3) …… 13
第11図　出土遺物実測図(4) …… 14

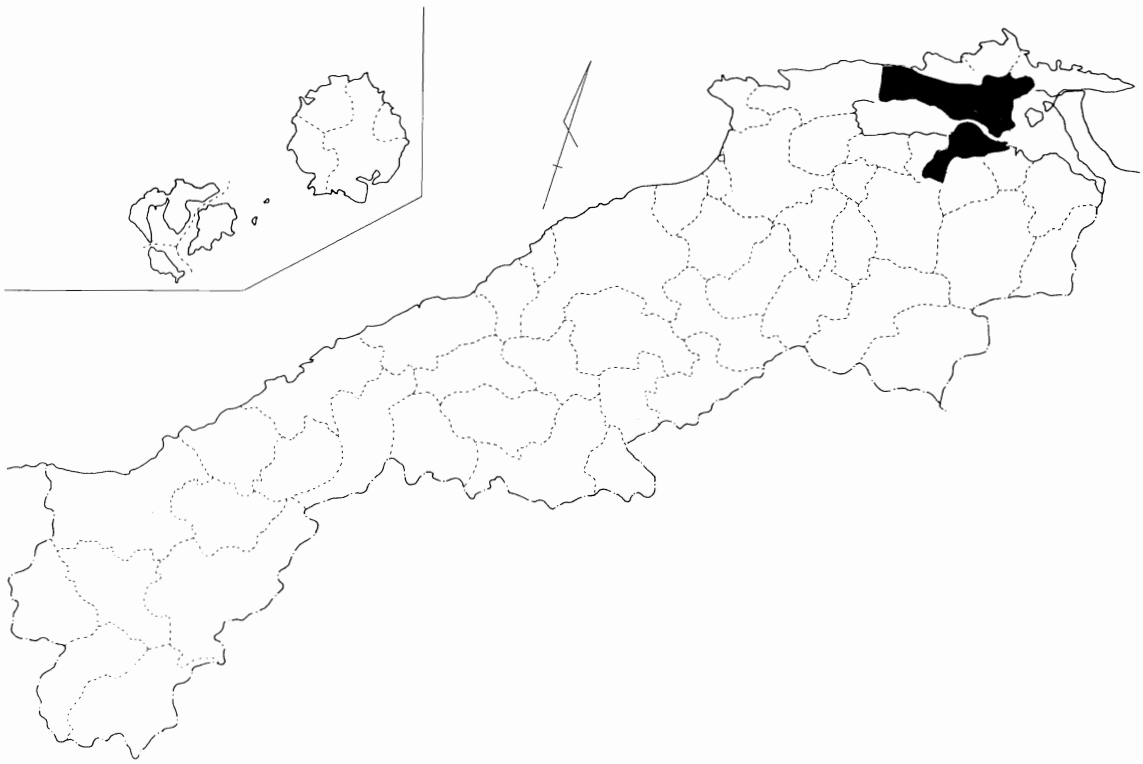
図版目次

図版１　調査トレンチ完掘状況（Ｔ－１～Ｔ－３）
図版２　調査トレンチ完掘状況（Ｔ－４～Ｔ－７）
図版３　出　土　遺　物
図版４　出　土　遺　物
図版５　出　土　遺　物
図版６　出　土　遺　物

第Ⅰ章　調査に至る経緯

（仮称）松江市浜乃木・乃木福富土地区画整理組合において組合施行による土地区画整理事業計画（施行面積12.6ha）が松江市浜乃木・乃木福富町地内で持ち上がった。そのため、松江市都市建設部都市計画課から平成10年５月26日付都第201号で埋蔵文化財の試掘調査依頼書が提出された。開発区域は現況水田・畑であり、本市教育委員会においてトレンチ26箇所を設定して同年７月22～24、27日及び12月９日において重機掘削による試掘調査を実施した。その結果、トレンチ２箇所において土器（弥生時代～古墳時代前期）が多量に出土し、遺物散布地が確認されたことから、開発区域内の道路部分について遺物が多量に出土したトレンチ周辺については更に詳細な調査が必要である旨を事業者宛回答した。 遺物散布地が発見されたこの遺跡については字名を取って、「二ツ縄手遺跡」と命名した。

松江市浜乃木・乃木福富土地区画整理組合設立準備委員会は平成11年３月１日付で埋蔵文化財発掘の届出（文化財保護法第57条の２）を本市教育委員会経由で文化庁長官宛に提出した。これを受けて本市教育委員会は同年４月22日付松教生文第33号で埋蔵文化財発掘調査の報告（同法第98条の２）を文化庁長官宛に提出した。本市教育委員会において平成11年４月20日から７月５日までの期間、トレンチによる調査を実施した。



第１図　松江市位置図

第Ⅱ章　位置と歴史的環境

二ツ縄手遺跡（1）は松江市南方の乃木平野に位置する。

旧石器・縄文時代の遺跡では、廻田遺跡（29）、福富Ⅰ遺跡（18）、などで旧石器時代の玉髄製ナイフ型石器や尖頭器が出土している。また、大角山遺跡から縄文時代の鉢形土器、松本古墳群（21）・福富Ⅰ遺跡では縄文時代の落とし穴状土壙や後期～晩期の土器・石器がそれぞれ出土している。

弥生時代の遺跡としては、松江農林高校の元農園があった辺りに欠田遺跡（16）があり、石包丁や弥生時代前期から古墳時代前期の土器が出土しており、乃木地区における稲作文化の始まりを想像させるものである。また、本遺跡南側に三重の環壕遺跡をもつ田和山遺跡群（31）が存在する。中期から後期にかけては、遺物散布地の門田遺跡（59）、墳丘墓・土壙墓が築造された友田遺跡（33）が、また、後期の竪穴式住居跡１棟が検出された廻田遺跡（29）が知られている。その中でも友田遺跡では、四隅突出型墳丘墓を含む墳丘墓６基（周溝を共有しあい、接して造られている）と土壙墓26基（うち６基から石鏃が出土しており、石鏃が突き刺さった者をそのまま埋葬している）が検出され、貼石や突出部の形状から墳丘墓は弥生墳丘墓としては県内でも最古期の部類に入るものである。袋尻遺跡群（52）は縄文時代から近世にかけての複合遺跡で、集落跡・古墳群・横穴墓群・古墓群などが検出された。住居から古墳・横穴墓・古墓などが密接して存在していたことは、昔の人々の生活を知る上では貴重な資料と成り得るものである。

古墳時代の遺跡としては、全長61.4mの大型前方後円墳を中心とした７基の古墳が存在する大角山古墳群（15）や長砂古墳群（43）などの中期古墳が知られ、中期後葉から後期中葉にかけては来待石製の組合せ式式石棺、子持勾玉が出土した二名留古墳群（13）、後期には前方後方墳の乃木二子塚古墳（41）、前方後円墳で横穴式石室をもつ田和山１号墳（31）や岩屋口古墳（54）などの古墳が知られているが、その他では多くが屋形１号墳（27）などの小規模古墳や横穴墓である。横穴墓は一部花形紋様の象嵌が施されている刀身が出土した奥山遺跡（44）、赤いベンガラが内部に塗ってある蓋坏が出土した弥陀原横穴群（55）や松本横穴墓群（56）などが知られている。玉作遺跡としては瑪瑙や碧玉を産出する花仙山の東域にあたる大角山遺跡（14）、福富Ⅰ遺跡（18）、乃白権現遺跡（57）から出土した多くの玉原石、未製品、砥石類が知られており、古墳時代中期に短期間生産されており、大角山１号墳の埋葬者が玉作り製作集団を束ねていたのではないかと考えられる。製鉄関連遺跡としては、製鉄関連用の炭窯と言われる横口付炭窯跡が県内で初めて発見された布志名大谷Ⅱ遺跡（53）がある。

奈良時代の地誌である『出雲国風土記』には、この付近には「通道」が通っていたと記載されているが、松本古墳群や才の神遺跡（58）では古代道と思われる遺構が検出されており、この地域が古くから交通の要衝の地であったことが窺われる。

1. 二ツ縄手遺跡　2. 堀尾忠晴公墓　3. 伝佐々木高綱墓　4. 荒神古墳　5. 昆沙門山古墳群　6. 西ノ原遺跡
7. 宇賀Ⅰ遺跡　8. 宇賀Ⅱ遺跡　9. 桧山古墓群　10. 経塚古墳　11. 向荒神古墳　12. 福富湖岸遺跡
13. 二名留古墳群　14. 大角山遺跡　15. 大角山古墳群　16. 欠田遺跡　17. 神立遺跡　18. 福富Ⅰ遺跡
19. 福富Ⅱ遺跡　20. 松本遺跡　21. 松本古墳群　22. 松本古墳　23. 松本修法壇跡　24. 乃白玉作跡
25. 乃白遺跡　26. 屋形遺跡　27. 屋形古墳群　28. 蓮花垣遺跡　29. 廻田遺跡　30. 薬師前遺跡
31. 田和山遺跡　32. 向原古墳群　33. 友田遺跡　34. 南友田遺跡　35. 後友田古墳群　36. 野向古墳
37. 菅沢遺跡　38. 大久保古墳群　39. 大久保谷古墳　40. 二子塚古墳　41. 乃木二子塚古墳　42. 下沢遺跡
43. 長砂古墳群　44. 奥山遺跡　45. 運動公園内古墳群　46. 矢の原遺跡　47. 神田古墳　48. 神田遺跡
49. 渋ケ谷遺跡　50. 勝負谷遺跡　51. 深田遺跡　52. 袋尻遺跡群　53. 布志名大谷Ⅱ遺跡　54. 岩屋口古墳
55. 弥陀原横穴群　56. 松本横穴墓群　57. 乃白権現遺跡　58. 才の神遺跡　59. 門田遺跡

第２図　二ツ縄手遺跡と周辺の遺跡

第Ⅲ章　調　査　の　概　要

調査は区画整理計画の道路部分にあたる箇所にＴ－１～７のトレンチを設定し、人力による掘削にて行なった。

以下は各トレンチごとの調査結果である。

Ｔ－１

基本層位は茶色粘質土（耕作土）、濁黒色粘質土（黄色土混入）、濁青色粘質土（比較的締まっている）、白色砂質土、灰色粘質土、緑色粘質土（一部緑色砂質土でシルト層）である。第１層から第２層は近年の圃場整備による盛土と思われる。

出土遺物の量は少なく、灰色粘質土から土師器片１、緑色粘質土から土師器片１、石器１がそれぞれ出土している。遺構は検出されなかった。

Ｔ－２

基本層位は明茶色土（真砂土）、濁青褐色粘質土、黒色粘質土（トレンチ北側で近年一部掘削されている）、一部灰色砂質土、褐色粘質土（シルト層）である。第１層から第２層は圃場整備による盛土と考えられる。

遺物は第３層黒色粘質土の上部で近世の陶磁器が、下部で弥生式土器底部１、土師器片数片、土師質土器片１、土錘１、黒曜石剥離片１がそれぞれ出土している。遺構は検出されなかった。

Ｔ－３

基本層位は茶色粘質土（耕作土）、青色粘質土、濁茶色粘質土（または茶色砂質土）、黒色粘質土、緑色砂質土（シルト層で砂粒子を大量に含む）である。第１層から第２層にかけては圃場整備による盛り土と考えられる。

遺物は第４層の黒色粘質土から弥生式土器片、土師器片、土錘１点が出土している。黒色粘質土に有機物を含む層から摩滅した土器の細片や比較的大きな土器片が多量に出土したためトレンチを拡張して包含層を追跡した。遺構は検出されなかった。

Ｔ－４

基本層位は茶色粘質土（青色粘質土混入、耕作土）、一部茶色砂質土、濁青色粘質土、黒色粘質土（炭化物を含む）、緑色粘質土（シルト層で一部緑色砂質土混入）である。

遺物は第１層の茶色粘質土より須恵器片、陶磁器片が出土し、第２層からは寛永通宝１が出土している。第４層の黒色粘質土にはＴ－３と同様に有機物が含まれ、同層中より縄文土器１、弥生式土器片、土師器片、土錘１がそれぞれ出土している。Ｔ－３と同様に摩滅した土器の細片が比較的多量に出土したためトレンチを拡張して包含層を追跡した。遺構は検出されなかった。

第３図　二ツ縄手遺跡トレンチ配置図

Ｔ－５

基本層位は茶色粘質土（耕作土）、青色粘質土、淡黒褐色粘質土、緑色砂質土、黒色粘質土、緑色粘質土（シルト層）である。

遺物は茶色粘質土から陶磁器片２、黒色粘質土から弥生式土器片、土師器片が出土している。Ｔ－３・４と比べて遺物の出土量が極端に減ったことから遺物の出土状況を確認するため調査区を北側に拡張した。その結果、Ｔ－５内においては遺物の出土量はどの位置でも一定して摩滅した細片でしか確認されず、Ｔ－４内で遺物の出土状況に変化が現れるものと思われ、Ｔ－５を拡張した後に、Ｔ－４を拡張したものである。遺構は検出されなかった。

Ｔ－６

基本層位は茶色粘質土（青色土混入、耕作土）、黒色粘質土、緑色粘質土、灰色砂質土（炭を含む）、緑色粘質土（シルト層で灰色砂質土混入）である。出土遺物は少なく、黒色粘質土から縄文土器片、弥生土器片、土師器片が数片出土している。遺構は検出されなかった。

Ｔ－７

基本層位はＴ－６と似ており、茶色粘質土（耕作土）、青色粘質土、緑色粘質土（粘性が弱く、締まっており、藻を含む）、灰色砂質土、黒色粘質土、緑色粘質土（シルト層で灰色砂質土混入）である。黒色粘質土から縄文土器片、弥生土器片、土師器片が数片出土している。遺構は検出されなかった。

ま　と　め

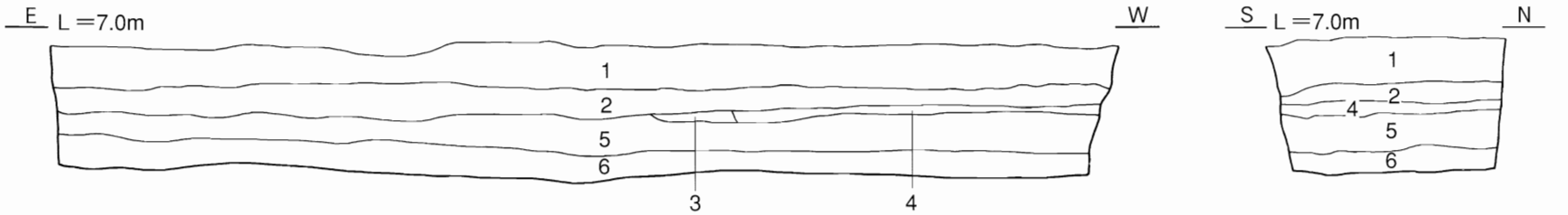
調査の結果、本遺跡において遺構は検出されず、自然流路によって堆積した遺物包含層であることが判明した。

土層堆積状況はＴ－１～５の範囲では耕作土下の層で中～近世の遺物が出土していることから、近年の圃場整備によって旧耕作土上に盛土が施されているものと考えられる。中～近世の遺物を含む層より下層では昔からの土層堆積が保たれているものと見られる。

調査区のほぼ全域に渡って遺物が検出された土層はＴ－２からＴ－７に見られる黒色粘質土中からであり、特にＴ－３、４では摩滅した土器の細片が多量に検出されている。

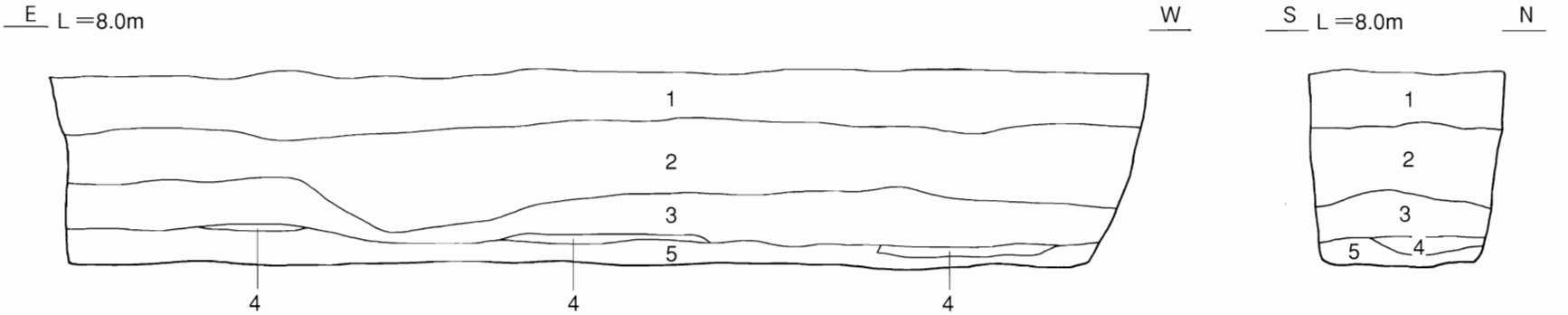
この黒色粘質土は部分的に有機物を含んでおり、現在の忌部川にあたる昔の河川の流れが何らかの原因によって湿地化し植物が繁茂した時期の堆積であると考えられる。湿地化する以前はＴ－３、４辺りを中心として自然流路が存在したのであろう。

今回の調査では遺構は検出されなかったが、流れ込みによる遺物として縄文時代晩期から古墳時代前期の遺物が出土しており、忌部川流域の丘陵縁部には未だ発見されないこの時期の遺構を伴う遺跡が存在することを示唆するものであり、今後の注意が必要である。



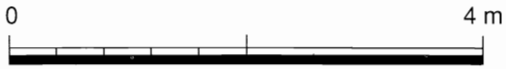
T－1

1．茶色粘質土（耕作土）
2．濁黒色粘質土（黄色土混入）
3．濁青色粘質土
4．白色砂質土
5．灰色粘質土
6．緑褐色粘質土（シルト層）

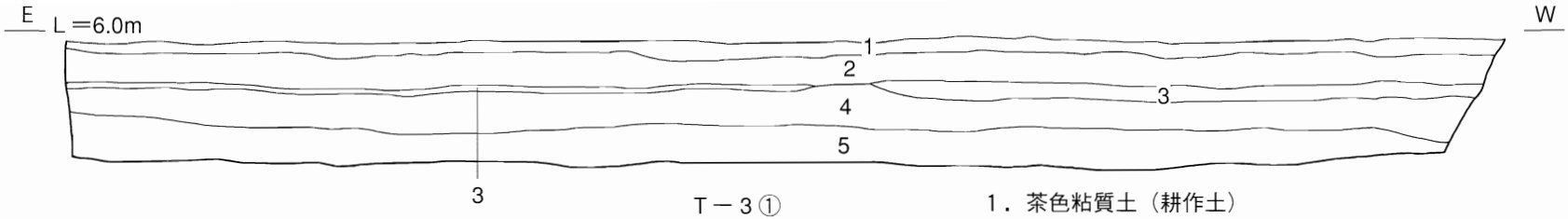


T－2

1．明茶色土（真砂土）
2．濁青褐色粘質土
3．黒色粘質土
4．灰色砂質土
5．緑褐色粘質土（シルト層）

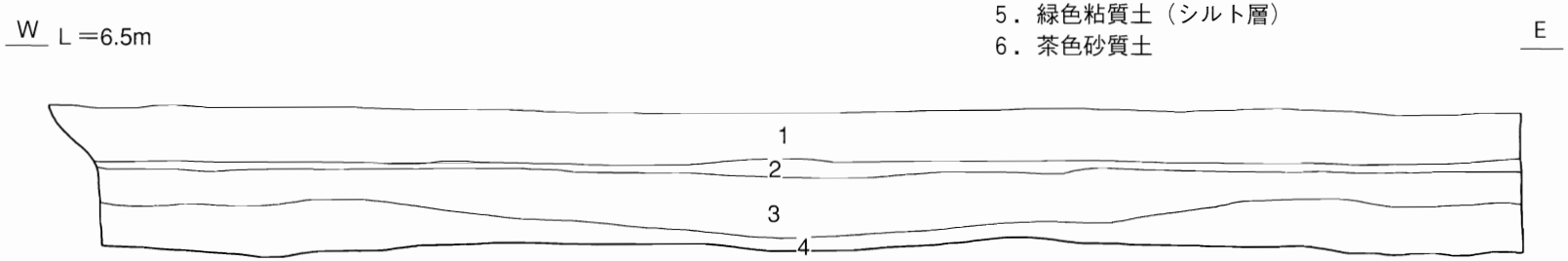


第４図　調査トレンチ土層断面図（T－１、T－２）



T－3①

1．茶色粘質土（耕作土）
2．青色粘質土
3．濁茶色粘質土
4．黒色粘質土
5．緑色粘質土（シルト層）
6．茶色砂質土

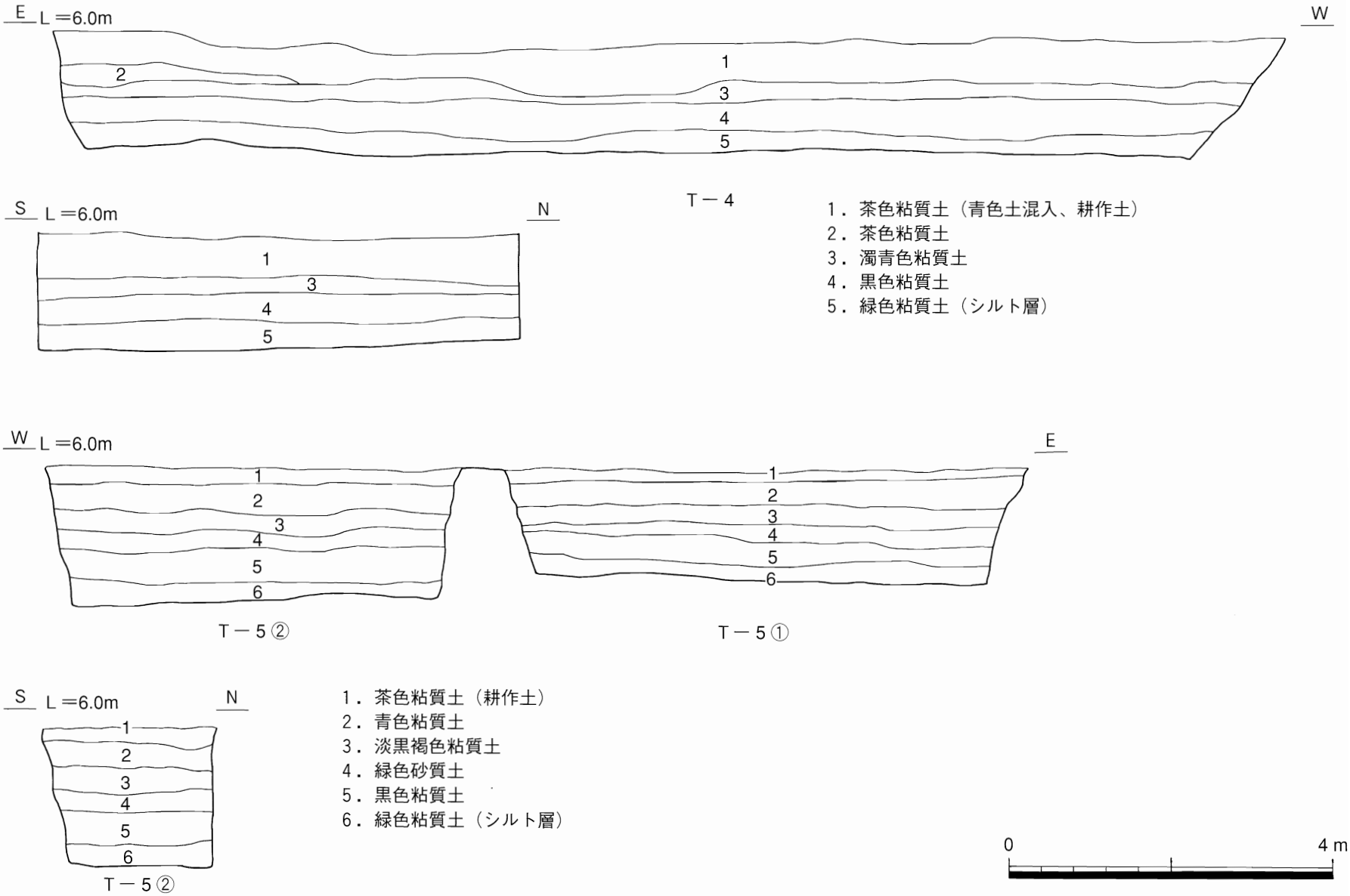


T－3③

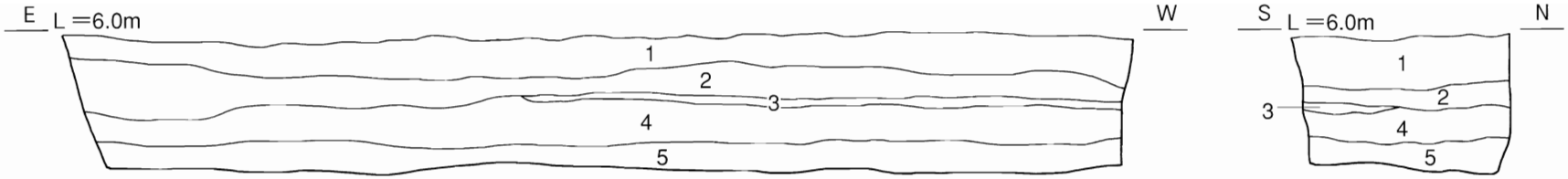
1．茶色粘質土（青色土混入、耕作土）
2．茶色砂質土
3．黒色粘質土
4．緑色粘質土（シルト層）

0　4 m

第５図　調査トレンチ土層断面図（T－３①、②）

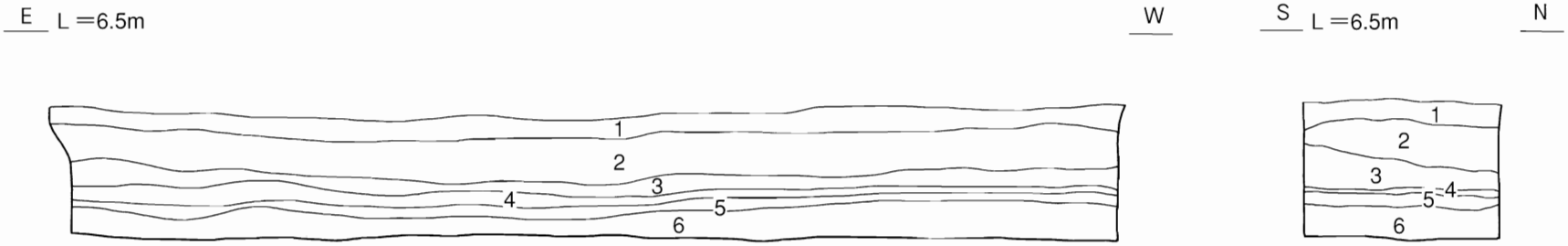


第６図　調査トレンチ土層断面図（T－４、T－５①、②）



T－6

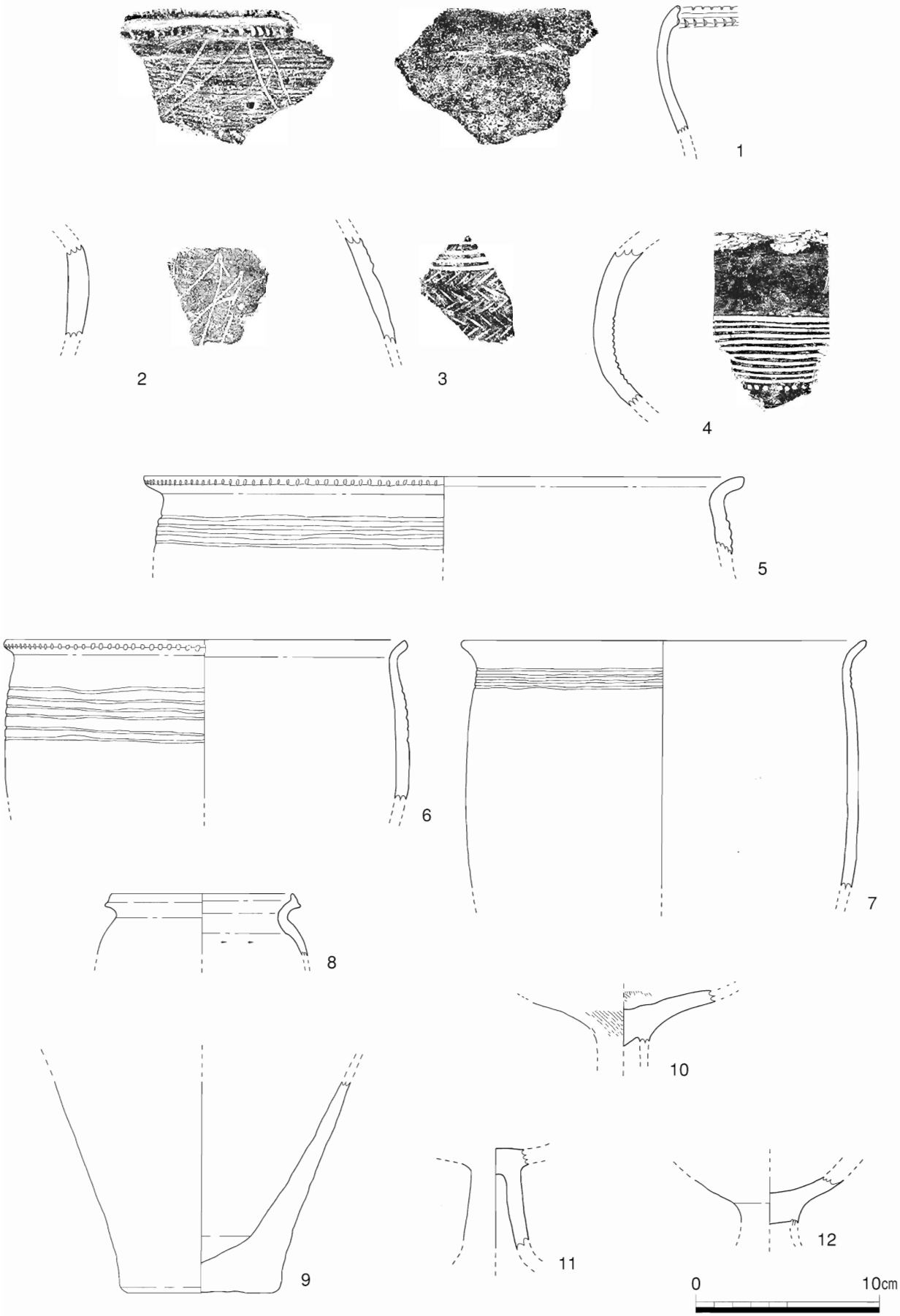
1．茶色粘質土（青色土混入、耕作土）
2．黒色粘質土
3．緑色粘質土
4．灰色砂質土
5．緑色砂質土（シルト層）



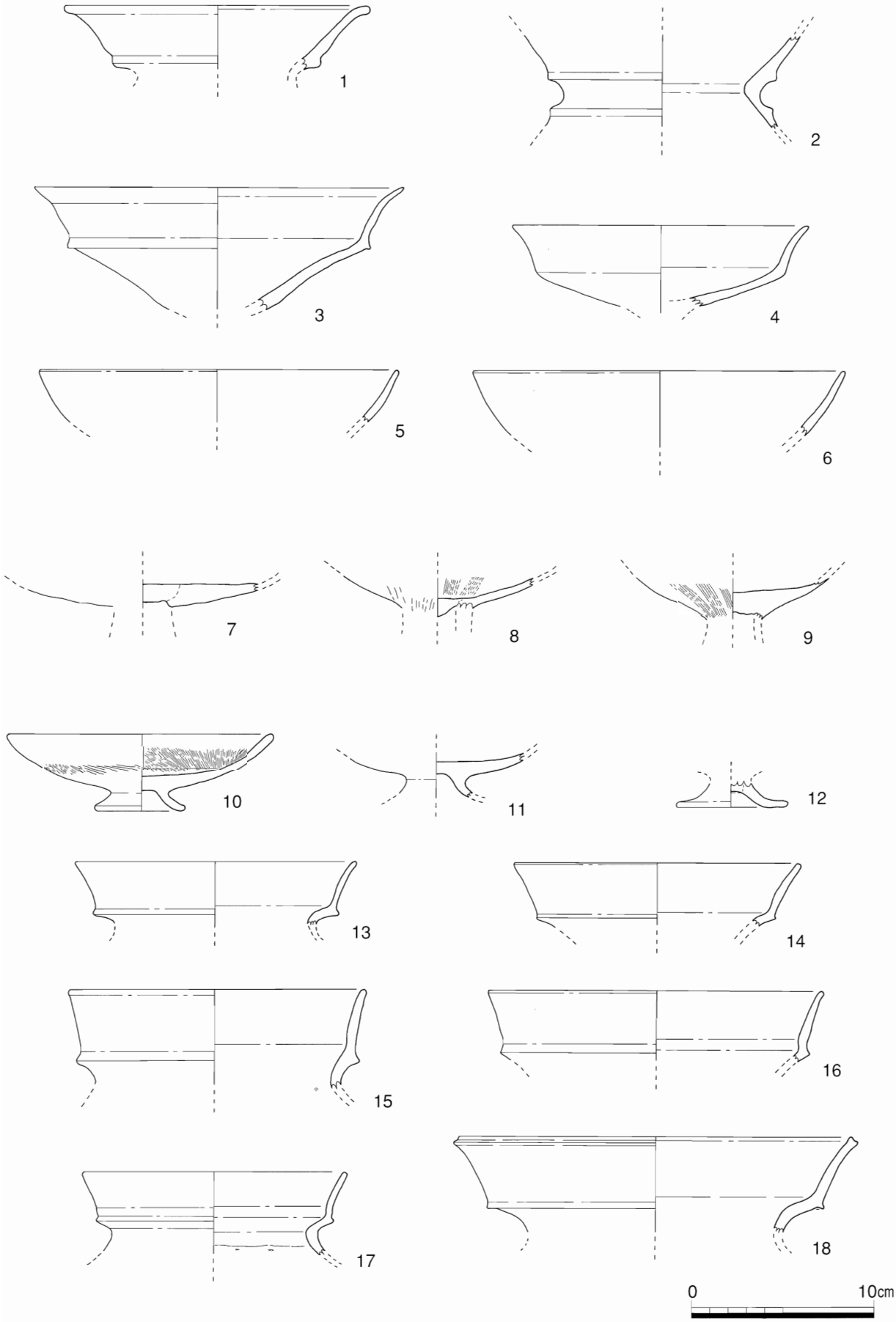
T－7

1．茶色粘質土（耕作土）
2．青色粘質土
3．緑色粘質土
4．灰色砂質土
5．黒色粘質土
6．緑色粘質土（シルト層）

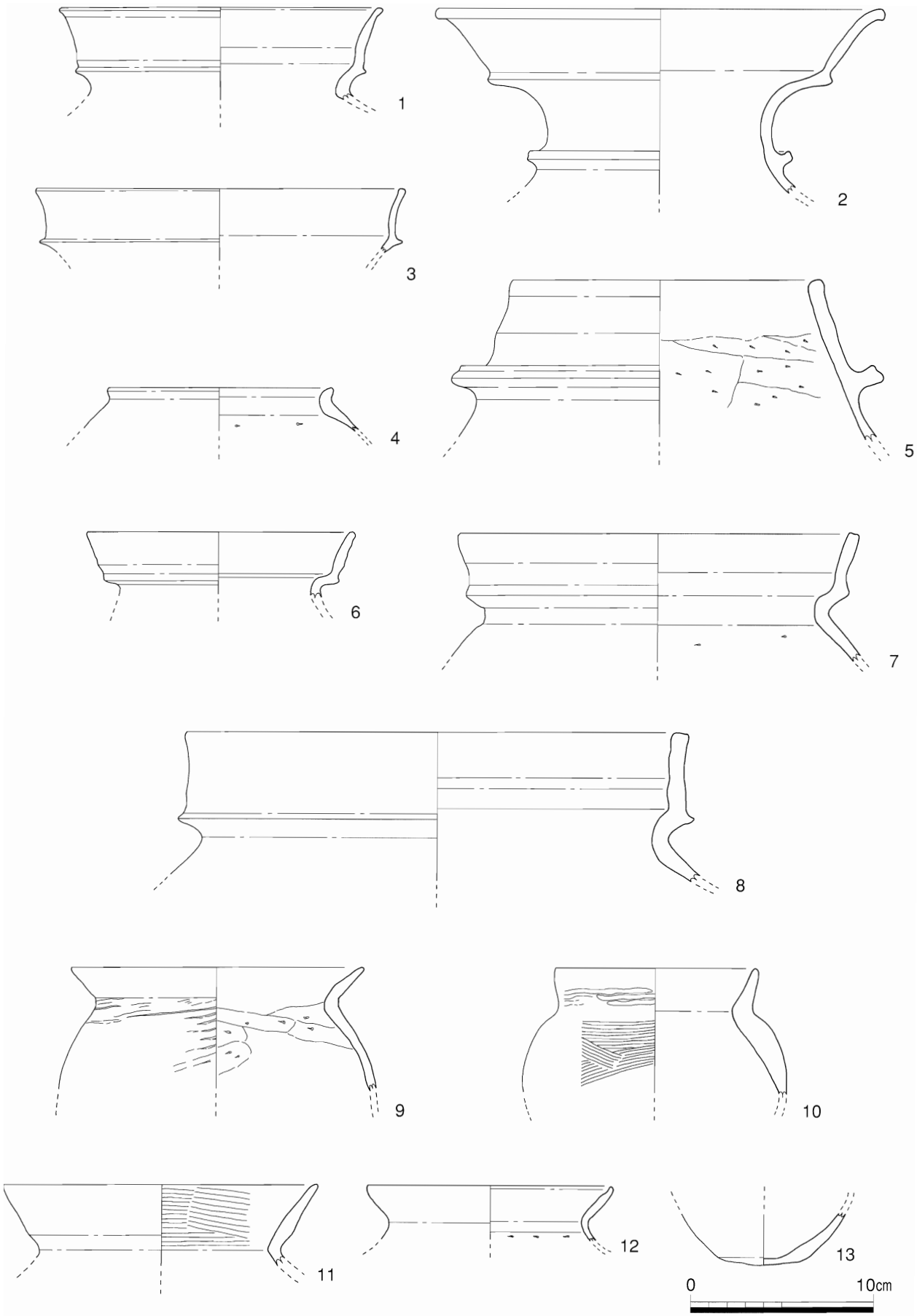
第７図　調査トレンチ土層断面図（T－６、T－７）



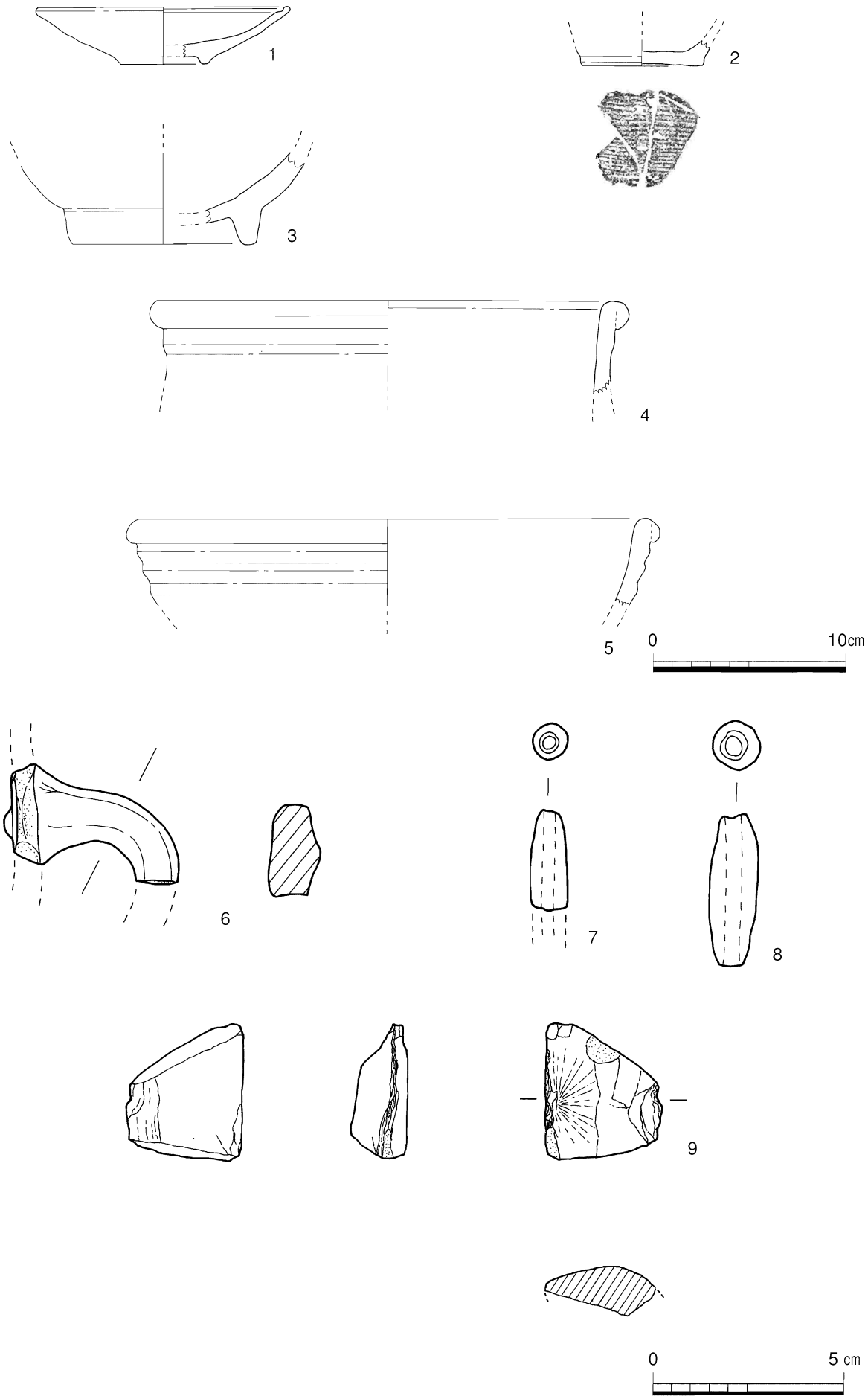
第８図　出土遺物実測図(1)



第９図　出土遺物実測図(2)



第10図　出土遺物実測図(3)



第11図　出土遺物実測図(4)

遺物観察表

挿図番号	種　類	法量(cm)	調整・手法・形態の特徴	胎　土	焼成	色　調
8－1	縄文土器 深鉢		(外) 頸部以下条痕 (内) ナデ 口縁端部、突帯に刺突が施される 頸部にヘラ描きによる文様	2㎜程度の砂粒を多く含む	良好	外面 暗褐色 内面 淡褐色
8－2	弥生土器 壷		胴部外面に線刻画	1㎜程度の砂粒を少し含む	良好	外面 灰褐色 内面 暗灰褐色
8－3	弥生土器 壷		胴部に貝殻腹縁による羽状文、上半に4条以上の平行沈線		良好	淡茶褐色
8－4	弥生土器 壷		頸部に11条のヘラ描直線文、以下に円形の刺突列点文	1～2㎜の砂粒を含む	良好	外面 灰茶色 内面 暗灰茶色
8－5	弥生土器 甕	口径 32.6	(外) 口縁部 ヨコナデ、肩部～ ナデ (内) ナデ 口縁端部に刻目、肩部に4条の凹線文	3㎜以下の砂粒を含む	良好	橙白色
8－6	弥生土器 甕	口径 21.8	(外) ナデ、(内) ナデ 口縁端部に刻目、肩部に6条の凹線文	3㎜以下の砂粒を含む	良好	外面 橙褐色 内面 茶色
8－7	弥生土器 甕	口径 21.6	(外) ナデ、(内) ナデ 肩部に4条の凹線文	3㎜以下の砂粒を多量に含む	良好	外面 暗褐色 内面 茶色
8－8	弥生土器 壷	口径 9.8	(外) ヨコナデ (内) 口縁部ヨコナデ 以下ヘラケズリ	緻密 0.2㎜以下の砂粒を少し含む	良好	淡橙褐色
8－9	弥生土器 (底部)	口径 7.8	内外ともに摩滅により不明	1～5㎜の砂粒を含む	良好	黄褐色
8－10	弥生土器 高杯		(外) 坏部ハケメ (摩滅) (内) 坏部底にハケメ (摩滅)	1～2㎜の砂粒を多く含む	良好	淡黄褐色
8－11	弥生土器 高杯		(外) 坏部 斜め方向のハケメ (摩滅)、(内) 坏部底面 斜め方向のハケメ	0.5㎜以下の砂粒を含む	良好	淡褐色
8－12	弥生土器 高杯		内外ともに摩滅により不明	1～2㎜の砂粒を多く含む	良好	赤茶色
9－1	土師器 鼓形器台	口径 16.4	(外) ヨコナデ (内) ナデ	1㎜程度の砂粒を少量含む	良好	橙褐色
9－2	土師器 鼓形器台	筒部径10.6	調整は摩滅により不明瞭 外面はヨコナデ 内面器脚部はヘラケズリか	密 0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	赤茶色
9－3	土師器 高坏	口径 19.6	内外ともに摩滅により不明	1㎜程度の砂粒を多く含む	良好	乳白色
9－4	土師器 高坏	口径 16.2	内外ともに摩滅により不明	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	褐色
9－5	土師器 高坏	口径 19.2	内外ともに摩滅により不明	0.5㎜程度の砂粒を多量に含む	良好	明褐色
9－6	土師器 高坏？	口径 19.9	(外) (内) 口縁部 ヨコナデ	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	明褐色
9－7	土師器 高坏		内外ともに摩滅により不明	1㎜程度の砂粒を少量含む	良好	淡褐色
9－8	土師器 高坏		(外) (内) 坏底部にハケメ (摩滅)	緻密である。	良好	褐色
9－9	土師器 高坏		(外) 坏底部にハケメ (内) 摩滅により不明	密で1㎜程度の砂粒を含む	良好	褐色
9－10	土師器 低脚坏	口径 14.6 底径 4.8 器高 4.2	内外共に摩滅しているが、杯部外面に斜め方向のハケメ、坏底部内面に斜め方向のハケメが認められる。	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	橙白色
9－11	土師器 低脚坏		内外ともに摩滅により不明	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	灰褐色
9－12	土師器 低脚坏	底径 6.2	(外) (内) ナデ	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	暗灰色
9－13	土師器 壷	口径 15.2	内外ともに摩滅により不明 口縁端部はやや外反し、稜はやや鈍い	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	淡褐色
9－14	土師器 壷か甕	口径 15.3	(外) (内) ヨコナデ 口縁端部は外反し、稜は鋭い 器肉は薄い	緻密で0.5㎜以下の砂粒を含む	良好	乳橙色
9－15	土師器 壷	口径 15.8	(外) ヨコナデ (内) 摩滅 口縁部はやや外反する 稜は比較的鋭い	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	明褐色
9－16	土師器 壷か甕	口径 17.8	(外) (内) ヨコナデ 口縁端部はやや外反し、稜は鋭い 器肉は薄い	緻密で微砂粒を多く含む	良好	黒褐色
9－17	土師器 壷か甕	口径 14.0	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ、頸部下よりヘラケズリ	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	橙白色
9－18	土師器 壷	口径 21.3	(外) ヨコナデ (内) 口縁端部 ヨコナデ 以下摩滅 口縁は外反し、端部に凹線が巡らせられている 稜は鋭い	緻密で微砂粒を多く含む	良好	黒褐色 茶色
10－1	土師器 壷か甕	口径 17.4	内外共にヨコナデ	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	外面 橙白色 内面 橙色
10－2	土師器 壷か甕	口径 20.1	(外) (内) ヨコナデ 口縁部はやや外反し、稜は鋭い 端部は平坦	密で1㎜程度の砂粒を少量含む	良好	淡褐色
10－3	土師器 壷	口径 24.2	(外) 口縁部 ヨコナデ 頸部 摩滅 (内) 口縁部 ヨコナデ 頸部 ナデ	0.5㎜程度の砂粒を多く含む	良好	乳橙色
10－4	土師器 無頸壷	口径 12.2	(外) 口縁部 ヨコナデ (内) 口縁部 ナデ 以下 ヘラケズリ	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	橙白色
10－5	土師器 無頸壷	口径 16.3	(外) 口縁部 ヨコナデ 以下 ナデ (内) 口縁部 ヨコナデ、ナデ 以下 ヘラケズリ 突帯が巡らせられる 胴部は器肉が薄い	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	橙白色
10－6	土師器 壷	口径 14.2	(外) ヨコナデ (内) ナデ 口縁は外反し、稜は鈍い	密で0.5㎜以下の砂粒を含む	良好	淡褐色
10－7	土師器 壷	口径 21	(外) ヨコナデ (内) 口縁部 ヨコナデ 肩部 ヘラケズリ 口縁端部に凹線	緻密で0.5㎜以下の砂粒を含む	良好	橙白色
10－8	土師器 壷	口径 27.4	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ、ナデ 口縁部は直立気味	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	淡灰茶色
10－9	土師器 甕	口径 16	(外) 叩き後ナデ 斜め方向に叩き痕 (内) ナデ 胴部 ヘラケズリ	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	淡褐色
10－10	土師器 壷	口径 11.2	(外) ナデ、(内) ナデ 頸部 工具による斜め方向のナデ痕跡 胴部に斜め、横方向のハケメ	1㎜程度の砂粒を含む	良好	外面 暗茶色 内面 茶褐色
10－11	土師器 壷	口径 17.3	(外) ヨコナデ (内) 口縁部 横、斜めのカキメ 頸部 ヨコナデ	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	外面 黒色 内面 暗褐色
10－12	土師器 壷	口径 13.4	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ後ナデ 頸部下よりヘラケズリ	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	灰褐色
10－13	土師器 小形丸底壷		(外) (内) 丁寧なナデ	緻密で0.5㎜程度の砂粒を含む	良好	暗褐色
11－1	唐津焼系 皿	口径 13.2	内面、及び口縁外部に薄く白色の釉がかかる	緻密	良好	橙茶色
11－2	土師質土器	口径 6.3	底部 糸切	0.5m程度の砂粒をわずかに含む	良好	暗褐色
11－3	近世陶器	底径 8.4	(外) 高台部を除き茶系の釉を施す (内) 淡黄灰色の釉を施す。内外共にハケメ		良好	外面 暗茶褐色 内面 淡黄灰色
11－4	近世陶器 甕	口径 23.0	内外共に暗茶褐色の釉		良好	暗茶褐色
11－5	近世陶器 鉢	口径 26.5	口縁部外面と内面に灰褐色の釉		良好	灰褐色
11－6	須恵器 把手		側面4面がケズリによって面取りされている	1～2㎜の砂粒を少し含む	良好	淡灰色

土製品・石製品観察表

挿図番号	種　類	
11－7	土錘	残存長2.7㎝、最大径1㎝、孔径3㎜、胎土 緻密である 焼成 良好 色調 暗灰色
11－8	土錘	長さ4㎝、最大径1.2㎝ 孔径4.5㎜ 胎土 緻密である 焼成 良好 色調 淡茶色
11－9	石器（未製品）	加工痕跡あり、石材はサヌカイト

図　　版

図版１

Ｔ－１　完掘状況（西側より）

Ｔ－１　土層堆積状況（西側より）

Ｔ－２　完掘状況（西側より）

Ｔ－２　土層堆積状況（西側より）

Ｔ－３　完掘状況（西側より）

Ｔ－３　土層堆積状況（西側より）

Ｔ－３②　完掘状況（東側より）

Ｔ－３②　土層堆積状況（東側より）

Ｔ－４　完掘状況（北側より）

Ｔ－４　土層堆積状況（北側より）

Ｔ－５①　完掘状況（西側より）

Ｔ－５②　完掘状況（東側より）

Ｔ－６　完掘状況（西側より）

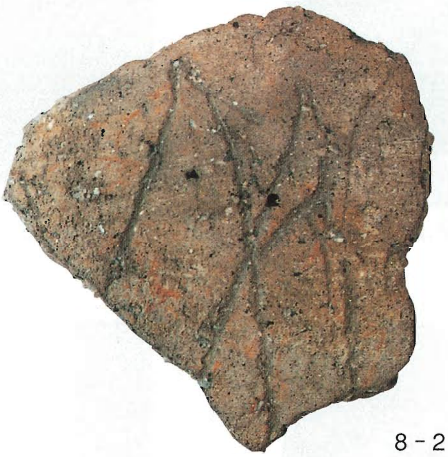
Ｔ－６　土層堆積状況（東側より）

Ｔ－７　完掘状況（東側より）

Ｔ－７　土層堆積状況（東側より）

図版 3

8－1



8－2

8－3

8－4

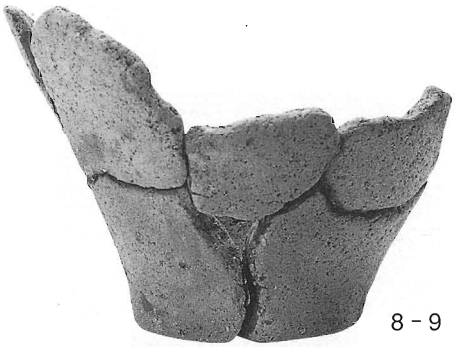
8－6

8－7

8－5

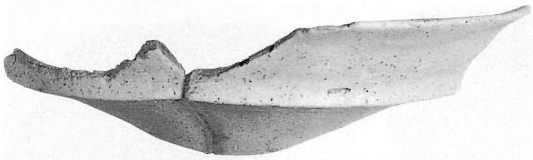
8－10

8－11

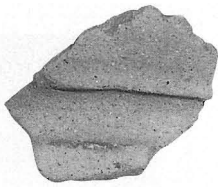

8－9

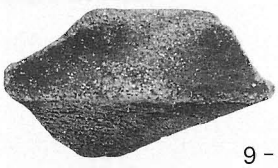
8－8

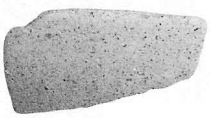
8－12


9－3

9－1


9－2


9－4


9－5

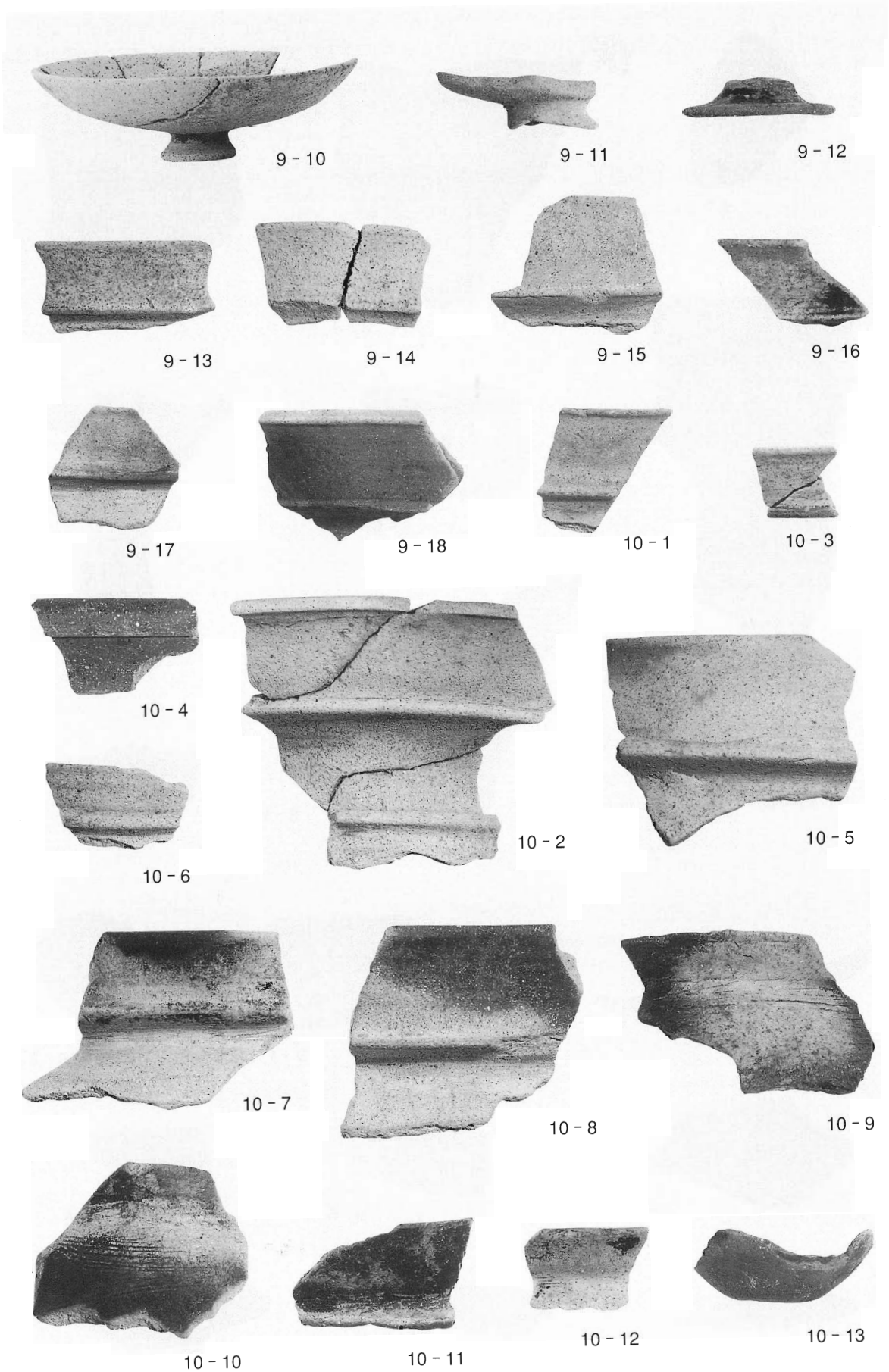
9－6

9－7

9－8

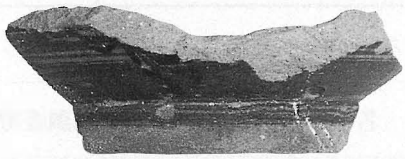
9－9

図版 5


9 - 10
9 - 11
9 - 12
9 - 13
9 - 14
9 - 15
9 - 16
9 - 17
9 - 18
10 - 1
10 - 3
10 - 4
10 - 2
10 - 5
10 - 6
10 - 7
10 - 8
10 - 9
10 - 10
10 - 11
10 - 12
10 - 13

11－6

11－2



11－3

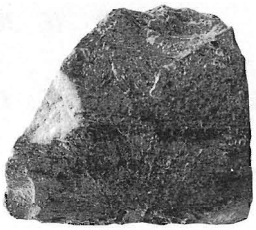
11－1

11－4

11－5

11－7

11－8



11－9

報告書抄録

フリガナ	フタツナワテイセキハックツチョウサホウコクショ				
書　　名	二ツ縄手遺跡発掘調査報告書				
編 集 者	古　藤　博　昭				
編集機関	松江市教育委員会				
所 在 地	〒690-8540 島根県松江市末次町86番地　TEL 0852(55)5294				
発行年月日	2001年３月31日				
フリガナ	フリガナ		北　緯	東　経	
所収遺跡名	所　在　地		36°26′17″	133°3′21″	
フタ ナワテ イセキ 二ツ縄手遺跡	シマネケンマツエシハマノギチョウ ノ ギフクドミチョウ 島根県松江市浜乃木町、乃木福富町		調査面積	コード	
調査期間	1999.04.20～1999.07.05		270m²	市町村	32201
調査原因	乃木区画整理事業			遺跡番号	D50
所収遺跡名	種　　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
二ツ縄手遺跡	散布地	縄文時代 弥生時代 古墳時代 中　　世 近　　世		縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 陶磁器 石製品 木製品	

二ツ縄手遺跡発掘調査報告書

2001年３月

発　行　　松 江 市 教 育 委 員 会

印　刷　　㈱ 谷 口 印 刷
松江市東長江町902-59